

## 一九九一年度 第四回運営委員会記録

日 時

一九九一年五月二十五日

場 所

明治大学大学院 第二会議室

出席者

高山隆三、吉沢四郎、河村能夫、長谷川昭彦、杉岡直人  
高橋明善、武田共治、黒崎八洲次良、柿崎京一

若林敬子、東敏雄、磯辺俊彦、庄司俊作

報 告

### 一 各地区研究会の開催状況

事務局より、前回の運営委員会以降、各地区で開催された研究会の報告者と報告テーマが報告された。なおこれらの研究会は、今回の運営委員会において一九九一年度大会の共通課題を確定するための準備としても、取り組まれた。

### 二 一九九一年度大会の開催について

黒崎八洲次良会員より、一九九一年度大会の開催場所の特徴、会場、宿泊施設、交通等について報告された。

審 議

### 一 一九九一年度大会の共通課題について

会員アンケートならびに地区研究会をも踏まえ、一九九一年度大会の共通課題を、「日本農業・農村研究の課題を求めて」に決定した。今後、宿題委員会においてテーマの具体化を図る。

### 二 宿題委員の選出

北海道 杉岡直人

東北 岩本由輝

関東・甲信越 相川良彦

光吉利之氏

「イエ論の現代的総括」

中部・近畿 交野正芳、河村能夫、北原淳、鳥越皓之

松本通晴氏

「ムラ論の現代的総括」

中国・四国 徳野貞雄

九州 吉沢和彦

なお、関東・甲信越については、もう一名追加する。

### 三 「研究通信」の原稿について

会員の研究交流、情報・意見交換の場として「研究通信」を一層充実するために、会員から広く農村調査記等の原稿を募っていいる。今後、原稿を効果的に集めるため、各地区的運営委員は、地区単位で原稿依頼、原稿集めなどを積極的に行なう。

### 四 会員著書の紹介について

今後、著者本人が、会員著書を「自著を語る」という形でもつて、問題意識、自著の特徴などについて紹介するようにする。原稿の枚数は四百字詰原稿用紙六枚前後。

### 五 國際農村社会学会のセッション形成について

一九九二年八月にアメリカで開催される國際農村社会学会のセッション形成に向けて、高橋明善会員より、「戦後改革と日本農村」「日本農村の社会問題」「農業・農村の再生を目指して」「東・東南アジアの農村と日本農村の比較研究」などのテーマ提案がなされ、議論した。今後、村研がセッション形成のために積極的に取りくむことが確認された。

### 六 次回運営委員会と全体研究会の場所・日程等について

日 時 七月十三日  
場 所 同志社大学 德照館一階会議室  
全体研究会の報告者とテーマ